

会長挨拶

一般社団法人 日本鉄リサイクル工業会
会長 鈴木 徹

皆様あけましておめでとうございます。

今年も会員並びに関係者の皆様、大変多くお集まりいただきましてありがとうございます。本日は御来賓として経済産業省 木原金属技術室長、普通鋼電炉工業会 明賀会長、日本鉄源協会 榮会長にお越しいただいております。お忙しい中、ご出席いただきましてありがとうございます。

今年に入りまして株価の乱高下があったり、大きな地震があったりと、昨年にしたことを忘れるなどと言われているような年初でした。昨年を振り返ってみますと6月の通常総会後に大阪で地震が発生し、西日本の豪雨があり、また大阪で台風が発生、北海道では地震が起きました。半年間のうちに多くの自然災害が起きました。そして今年はどうなるのかと業界紙記者の方々から聞かれますが、端的に申しますとよく分からないということになります。経済面は堅調だと言われておりますが、不安定要因もあります。アメリカと中国の貿易戦争が覇権争いにまで発展していると言われておりますし、ヨーロッパでは英国のEU離脱の問題などもあります。日本では今年の秋から消費税率アップも実施されます。こうしたこと以外にも様々なことが起きてくるのではないかと思いますので、日頃から情報を収集し注視していくことが大切な一年になると思います。

当業界に関しては昨年末に鉄スクラップ価格が下がりましたが、鉄スクラップ需要面など全体を見ますと昨年は良い年であったのではないかと思います。今年も堅調に推移していただろうと思います。しかし一方では、解決しなければならない問題に直面しております。雑品処理の問題、それに付随して鉄スクラップ品質問題のことも引き続き取り組んでいかなければなりません。シュレッダーダストの問題もあります。中国による雑品の輸入禁止によってダストの処分場のひっ迫、行き場を失うという問題が起きています。また昨年秋には過積載による悲惨な事故がありました。この事故につきましては非常に反響が大きく年間の最大ニュースとした業界紙もありました。会員の皆様からも今後の対応等についてお問い合わせいただきましたが、この度、過積載防止を呼び掛けるポスターを制作しました。本件には普通鋼電炉工業会様にもご協力いただきまして連名のかたちで制作しました。近日中に会員の皆様に届きますので活用していただき、法令遵守を徹底していただきたいと思っております。

先ほど申しましたダストの問題につきましては、昨年末よりアンケート調査を実施し経産省や環境省と連携をとりながら進めているところです。また外国人材受け入れの問題もありますが、経産省と面談を行うなど連絡を密にして進めております。

いくつかお話しましたが、考えてみますと数年前までは鉄スクラップ中心の話でしたが、現在はどちらかと言うと鉄スクラップに付随する話になっております。このことは、我々が様々なもののリサイクルに関わっていることの表れだと思います。我々自身がどうすべきかということも重要ですが、社会の中で我々がどのような働きかけ、どのような制度を作成してもらうように動くべきなのか、まさに「社会との対話」が課題になっております。皆様もきちんとした対応をお願い致します。

工業会についてですが、今年の全国大会は関西支部主管により6月16日～17日に神戸で開催されます。詳細は後ほど木谷支部長がお話されると思いますが、多くの方に参加いただければと思います。大会前日には国際ネットワーク委員会主催による国際鉄リサイクルフォーラムが開催されますし、また新しい試みとして若い方々が主体となる会合も開催されます。これらの会合は、私が会長就任時より方針として掲げております国際化、人材育成という観点からも重要だと思います。こちらにつきましても是非、多くの方に参加いただければと思います。また広報という観点からは関係官庁や関係団体などとの対外的なコミュニケーション、また活動内容を会員に発信する内部的なコミュニケーションも極めて重要ですので、引き続き実施していきたいと思っております。

ご存知の通り今年には年号が変わります。昭和、平成と時代が変わることによって節目を迎えるということもあると思います。いろいろ困難なことはあると思いますが、元号が変わることを契機に心を新たにして様々な課題に取り組み、我々自身も変わる年にできればと思っております。9月にはラグビーワールドカップもあります。皆さんでスクラムを組んで、亥年ですので猪突猛進のパワーをもって、状況の変化に対応しつつ進めていきたいと思っております。会員間で協力し進めば良い結果に繋がると思いますので、よろしくお願い致します。

最後になりますが、本日お集まりの皆様にとりまして今年が良い一年になること祈念しまして挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。